

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193500139		
法人名	朝日ベストライフ株式会社		
事業所名	グループホームあさひの家室蘭 いるかユニット		
所在地	室蘭市緑町3-6		
自己評価作成日	令和5年2月14日	評価結果市町村受理日	令和5年3月16日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=0193500139-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=0193500139-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年2月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は介護に従事する者として、人権尊重・人格尊重・人権擁護の基本理念を理解し、職員自身も自らの個性を受け入れて理解しながら、利用者一人ひとりの「自分らしさ」「私らしさ」を支援できるように日々努めている。  
また、コロナ禍においても季節の行事や普段のレクリエーションを欠かさず実施することで、日々の生活の中での喜びや気分転換を図って頂くよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR駅から車で5分程の距離にある2階建2ユニットの事業所で住宅地エリアに位置している。開設以降、地域とは豊かな相互交流に取り組み支え合う関係性を育んできた。感染症流行でこれらは自粛であるが理念の姿勢は堅持し、法人事務局が中心となり地域住民にグループホームの機能や役割を啓発する講和の集いを開催し事業所資源の還元を努めている。職員は利用者の声や願いを生活の中で聞き取る事を第一義にしており、認知症高齢者の人権の守り手としての意識が高く、高齢者虐待防止や権利擁護など社内研修でも個々の学びを深めている。日々の関わりを大切にして利用者が話しやすい環境を整え、一例では「盆踊りがしたい」との希望に前庭で秋祭りや敬老会を同時開催し、職員と利用者が和太鼓を叩き手作りの神輿担ぎや法被を着て室蘭ばやしや北海盆唄を踊るなど賑わい喜び合う記念日へと発展しており、クリスマスは職員が三味線や民謡を披露し心温まる会を催した。午前午後の楽しみながらの筋力低下予防体操はグーパー体操や棒体操など時々動画を取り入れ、感染症の流行を乗り切ろうと職員はアイデア豊富に力を結集している様子が窺える。毎月の利用者カンファレンスで状態像を分析し新たな支援策を見出しタイムラグのない介護で効果を上げ、家族の評価も高い。職員は利用者の頼み事に業務の手を止め応え、目線に合わせて関わっている。理念が事業所全体のものとして発展している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設での生活においても、入居者様が自宅で生活していた時と同様に、毎日安心したなかでレクや役割に参加していただけるよう支援している。	社訓を根幹とする理念を標榜し、地域生活の継続支援と地域との関係性、エンパワメント、本人本位を要旨とする文言を掲げ、事業所内要所へ掲示している。支援は理念を元に検討し、新人職員へは理念に則りその人の暮らしをどう支えていくかを指導している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染対策のため地域の活動は現在自粛している。	感染症の流行以前は地域住民が事業所行事に訪れるなど活発な交流がなされていた。今年度、港南町会館でグループホームについての講和を開催し、事業所の機能や役割を説明するなど事業所資源を還元する取り組みが行われた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々から認知症の相談を受けるだけでなく、町内会での認知症の方の理解と講話などの取り組みを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、コロナのため社内開催ではありませんが運営推進会議を開催し、ご家族様または関係先に施設での取り組みを報告している。	運営推進会議は社内開催とし議事録を家族と構成メンバーへ送付している。利用者状況や事故報告、待機者数、課題等を詳細に報告し、事業所の運営状況を発信している。	議事録送付後に意見や感想等を聴取し、検討と共に次回議事録にて発信するなど、双方向的な書面開催の仕組み作りに期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括支援センター職員、介護保険課との連携を図り、実態を報告し、協力関係を構築している。	市の介護保険課とは書類提出や実地指導等で意見や助言を仰ぐなど、適正な運営の維持に向け協働関係を築き、市の保護課や保健師、地域包括支援センター、成年後見人、地域ケースワーカーなど様々な職種の関係者と連携を図り利用者支援に力を注いでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会が中心となり、日々のなかでの不適切ケアについてカンファレンスを行い再発防止や意識改善に取り組んでいる。	身体拘束廃止に関する指針を定め、身体拘束廃止委員会を開催している。認知症の方への接し方や利用者の中核症状の理解などを委員会内で周知し、全職員の共通認識とし徹底している。これらに係る研修は今年度3回実施し職員個々に報告書を作成して学びを深めている。玄関は防犯上の理由により施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	コロナの為、虐待防止委員会等の社内研修で虐待が発生しない様に、取り組んでおります。		

グループホームあさひの家室蘭

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	新任者の研修、オンラインでの研修に取り組み、知識向上に努めている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、計画作成担当者をご家族様と面談して契約事項、料金体制等の説明を行い、施設内の写真等で様子や日常の様子を伝えている。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関ホールに意見箱を設置し、ご家族様の意見等を受け入れ、健全な運営の向上に努めている。	利用者から「外で美味しいものが食べたい」「花見に行きたい」との要望には、外出が困難であるため事業所内で楽しめる食事提供や美しい桜の映像を動画視聴する場を設けている。家族意見は介護計画作成時や接する機会に聞き取り、また、相談事に応じている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、ユニット会議等を開催しスタッフの意見・要望を取り上げ周知している。	法人事務局担当者は週1回事業所に訪れ、適宜面談を行うと共に、施設長、ユニットリーダーと共に職員の意見や情報を取り入れ一緒に話し合いながら調整し、また、ユニット会議に出席できない職員からも事前に意見を聞き会議内で検討するなど職員のモチベーション維持や個々の力を結集した運営に向けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も現場に来て、入居者様と過ごしたり、個別職員の業務や思いを把握している。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内で開催される研修には多くの職員が受講できるようにし、オンライン動画研修も勤務のスキマ時間を利用して受講している。研修報告は全体会議やミーティングで行っている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム連絡会やケアマネ会等の会議に参加し、情報共有を行い、運営改善に反映させている。			

グループホームあさひの家室蘭

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必ず本人と会い、心身の状態やご本人の思いに向き合い、不安や願いを受け入れる体制が確保されていることを説明している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様のこれまでの苦労や経緯について、聴くようにしている。お話を聴くことで落ち着き、次の段階への相談に繋げている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な場合には可能な限り柔軟な対応を行っている。医療機関、訪問看護と連携し、適切なサービスを受けられるよう配慮している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様に対する接遇・人権の尊重と高齢者への敬意を念頭に置きつつ、共に生きていく者、生活していく者として、何でも話し合っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気付きの情報共有に努め、ご家族様と同じような思いで支援していることを伝えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響により、基本的な感染対策を実施しながら玄関フロアでビニールシート越しの面会、またはオンライン面会を実施している。	家族面会は内玄関にパーテーションを設け支援し、事業所端末を利用してオンライン映像で家族と対面する利用者もいる。利用者と家族間の電話の際は、本人が一人で話しやすい環境を作るなどプライバシーに配慮し大切な家族との関係をサポートしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で楽しく過ごす時間や気の合うもの同士過ごせる場面をつくる等、関係性がうまくいくように職員が調整役となって支援している。		

グループホームあさひの家室蘭

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方のご家族様が、いつでも気軽に相談できる環境作りを目指し、関係性を構築している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関りの中での把握に努めている。言葉や表情などからも本意を読み取るようにしている。	利用者の希望や意向は聞き取る事を第一儀とし、何気ない言葉や様子からも本意を確認している。表出が難しい利用者へも日頃の関わりの中で少しの変化にも気づくようにし、本人本位を検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ライフヒストリー表でのアセスメントを利用し、ご本人やご家族様、関係者から伺うように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々人の24時間の記録で入居者様一人ひとりの生活リズムを理解すると共に、言動や細かな動作から、本人の全体像を把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様が「自分らしく」暮らすことができるように、ご本人やご家族様から不安や願いを聞き、共に目標を達成してゆけるオリジナルな介護計画を関係者に意見をもらいながら作成している。	改訂したアセスメント様式を順次活用してニーズを把握し、毎月の利用者カンファレンスで課題分析と支援策を検討している。モニタリングは援助目標ごとに本人・家族の意見等を反映させ、利用者が自分らしく暮らすための介護計画を策定している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の状態変化や職員の気付きは、個別のケア記録に記載し、職員間での情報共有に努めている。個別記録をもとに介護計画の再評価を実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制を活かして入居者様にとって負担となる受診や入院の回避、医療処置を受けながらの生活の継続など、ご本人・ご家族様の状況や要望を軸に臨機応変に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様が安心して地域での暮らしを続けていけるように、市担当職員や契約している薬局等と意見を交換する機会を設けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族様の希望するかかりつけ医となっている。状態変化・悪化がみられる場合は、電話連絡での指示、受診、往診が早急に受けることができる。	協力医療機関の往診体制を整え、内科の定期受診や必要時の歯科診療、医療連携で訪問看護師が訪れている。利用開始前のかかりつけ医の受診も可能であり、家族との受診前後の情報交換を密にし、適切な医療を受けられる支援に努めている。	

グループホームあさひの家室蘭

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携訪問看護の看護師を配置し、訪問看護記録をもとに健康管理や状態変化に応じた支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、ご本人への支援方法に関する情報を医療機関医に提供し、職員は頻繁に見舞うようにしている。ご家族様とも情報交換しながら回復状況など速やかな退院支援に結びつけている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「重度化した場合の対応に係わる指針」を説明し、意思確認を行い、事業所が対応し得る最大のケアについて説明している。	契約時に「重度化した場合における対応に係る指針」を説明し同意を得ている。医師の判断に基づき関係者間で話し合いを重ね、事業所で看取りを行う場合は、看取り指針や看取りケア・リビングウィルについて説明し、関係者同意の下に支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所での救命講習実施できておらず、状況に応じた応急処置の方法を訓練が必要となっている。動画を活用した研修を検討していく。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所内の消防訓練は年2回に開催している。今後は地域と連携した防災訓練を実施できるよう町内会とも連携していく。	令和3年10月、4年6月に日中想定火災避難訓練を実施している。地域住民の参加協力は見送っている。災害備蓄品を確保し、感染症流行前は収容避難場所である近隣施設へ利用者と一緒に経路を辿り確認している。業務継続計画(BCP)を策定中である。	今年度3月に緊急招集を伴う夜間想定火災避難訓練と想定される自然災害のシミュレーションを行う予定であるので、階段使用時の避難誘導方法を全職員が把握できるよう実践的な訓練に期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会やミーティングにより、職員の資質向上を図ると共に、日々の関わり方を点検し、入居者様の尊厳やプライバシーを損ねない対応を図っている。	一人ひとりの権利を保障し人格を尊重した関わりを重視している。これらに係る社内研修は職員の考え方や介護のソーシャルワークにつながっている。個人記録はイニシャル表記し保管場所を取り決め管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の人格を尊重し、個々人がわかりやすい言葉でいくつかの選択肢を提案して、一人ひとりが自ら決定できる場合をつくっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「一日の流れ」はあるものの、一人ひとりの人間性に配慮しながら、できるだけ「私らしい生活」ができるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人本意で身だしなみが整えられるよう支援している。個別の生活習慣に合わせて、おしゃれを楽しみ、通院や行事に参加している。		

グループホームあさひの家室蘭

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材や新鮮なものを採り入れ、時には前庭と一緒に食事をとり、楽しめる雰囲気を提供している。	職員が献立し何を食べたいかを聞き取り日々の食事や誕生日メニューに反映している。祝膳の一例では海鮮丼や豪華な仕出し弁当を楽しんでいる。おやつは職員のアイデアスイーツを始めパンや饅頭など利用者の希望を叶えている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	おやつや補食も含めて入居者様一人ひとりが、一日全体で、栄養や水分量がどの程度摂れているのか記録し、職員が常に意識しながら関わっている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声かけを行い、ADLに応じて職員が見守ったり、介助を行っている。就寝前は義歯の洗浄を行っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の24時間記録にて排泄チェックを行い、パターンを把握し、声かけ、誘導を行い、自立に向けて支援を続けている。	失敗の不安を払拭する対応により、リハビリパンツから布パンツに移行し皮膚の痒みも取り除く事ができた利用者や自然覚醒の起床前に事前誘導する事で居室での排泄場所間違いが無くなるなど、一人ひとりの排泄課題に向け自立の回復や安心できる支援に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材や乳製品を摂り入れている。水分量も視野に入れて、リハビリ体操や家事活動など身体を適度に動かす機会を設けている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の時間の長短、湯温など個別に把握し、ゆっくり入浴できている。入浴されがらない利用者には、事前に声かけしたり、楽しく入浴できる雰囲気づくりを心がけている。	入浴が億劫な利用者へは「立てますか、歩けますか？」など自然な声かけで浴室へ導き、浴後はマッサージチェアで更に寛いでもらったり、入浴のない日は足浴で温め利用者からぐっすり眠れるようになったと声上がるなど他の生活の場面への満足感や安心感にもつなげている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠パターンを把握し、体操や散歩、行事などに参加を呼びかけ、日中に傾眠が強くなるように配慮している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報を整理し、職員が内容を把握できるようにしている。処方や容量が変更されたり、状態変化がみられるときは、いつもより詳細な記録をとり、医療機関と連携を図るようにしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	演歌等のYoutubeやCDをお好みに合わせて選んでいただき、鑑賞している。食器拭きなどの家事活動も適宜役割として行っている。			

グループホームあさひの家室蘭

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響により、積極的な外出はないが、通院やお祭りレクの際には外の空気を感じ、気分転換を図っている。	通院が主だった外出である中、前庭で秋祭りと敬老会を同時開催し、利用所と職員と一緒に戸外で過ごす機会を設けた。職員が和太鼓で盛り上げ手作りの神輿を利用者が担いだり、法被を着て室蘭ばやしや北海盆唄を踊るなど賑わい喜び合う記念日となった。茶菓などもウッドデッキで楽しみ気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設側で金銭管理は行っていない。必要な消耗品や病院受診代は立替えによりお支払いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所内の電話を利用していたり、携帯を所持されている方もいる。施設に届いたお手紙はご本人に取り次ぎ、交流が途切れないよう配慮している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季のイベント時、または日々のレク活動で装飾を作成し、季節感を演出できる空間を大切にしている。	玄関にお雛様を飾り面会時に和める雰囲気がある。居間は明るい造りでウッドデッキが奥行きを感じさせ開放感がある。ダイニングテーブルやソファの配置を工夫して利用者の居場所や動線を確保している。風物をモチーフにした壁画作品を飾り、職員手作りの花の飾りも温かみがあり、居心地のよい環境を整えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファコーナーやテーブル席があり、一人で過ごしたり、仲の良い入居者様同士で寛いでいる姿がある。転倒等の事故を未然に防げる環境づくりも配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた思い出のある写真や家具を持参していただき、在宅で生活しているような環境を整えている。	照明・暖房器具が設備され、鏡台やチェストなど愛着のある使い慣れた品々が持ち込まれている。家族の写真や飾り物は目に入る位置に置き、編み物や好きなテレビを見たり、安心できる環境を整えている。衛生面にも随時配慮し提案する声かけでサポートしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、浴室、トイレ、居室等に危険物がないか、障害物がないか、日頃より環境整備を行っている。		



自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193500139		
法人名	朝日ベストライフ株式会社		
事業所名	グループホームあさひの家室蘭 くじらユニット		
所在地	室蘭市緑町3-6		
自己評価作成日	令和5年2月14日	評価結果市町村受理日	令和5年3月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は介護に従事する者として、人権尊重・人格尊重・人権擁護の基本理念を理解し、職員自身も自らの個性を受け入れて理解しながら、利用者一人ひとりの「自分らしさ」「私らしさ」を支援できるように日々努めている。  
また、コロナ禍においても季節の行事や普段のレクリエーションを欠かさず実施することで、日々の生活の中での喜びや気分転換を図って頂くよう支援している。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvsoyCd=0193500139-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvsoyCd=0193500139-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年2月24日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設での生活においても、入居者様が自宅で生活していた時と同様に、毎日安心したなかでレクや役割に参加していただけるよう支援している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染対策のため地域の活動は現在自粛している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々から認知症の相談を受けるだけではなく、町内会での認知症の方の理解と講話などの取り組みを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、コロナのため社内開催ではありますが運営推進会議を開催し、ご家族様または関係先に施設での取り組みを報告している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括支援センター職員、介護保険課との連携を図り、実態を報告し、協力関係を構築している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会が中心となり、日々のなかでの不適切ケアについてカンファレンスを行い再発防止や意識改善に取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	コロナの為、虐待防止委員会等の社内研修で虐待が発生しない様に、取り組んでおります。		

グループホームあさひの家室蘭

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	新任者の研修、オンラインでの研修に取り組み、知識向上に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、計画作成担当者がご家族様と面談して契約事項、料金体制等の説明を行い、施設内の写真等で様子や日常の様子を伝えている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関ホールに意見箱を設置し、ご家族様の意見等を受け入れ、健全な運営の向上に努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、ユニット会議等を開催しスタッフの意見・要望を取り上げ周知している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も現場に来て、入居者様と過ごしたり、個別職員の業務や思いを把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内で開催される研修には多くの職員が受講できるようにし、オンライン動画研修も勤務のスキマ時間を利用して受講している。研修報告は全体会議やミーティングで行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム連絡会やケアマネ会等の会議に参加し、情報共有を行い、運営改善に反映させている。		

グループホームあさひの家室蘭

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必ず本人と会い、心身の状態やご本人の思いに向き合い、不安や願いを受け入れる体制が確保されていることを説明している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様のこれまでの苦労や経緯について、聴くようにしている。お話を聴くことで落ち着き、次の段階への相談に繋げている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な場合には可能な限り柔軟な対応を行っている。医療機関、訪問看護と連携し、適切なサービスを受けられるよう配慮している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様に対する接遇・人権の尊重と高齢者への敬意を念頭に置きつつ、共に生きていく者、生活していく者として、何でも話し合っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気付きの情報共有に努め、ご家族様と同じような思いで支援していることを伝えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響により、基本的な感染対策を実施しながら玄関フロアでビニールシート越しの面会、またはオンライン面会を実施している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で楽しく過ごす時間や気の合うもの同士過ごせる場面をつくる等、関係性がうまくいくように職員が調整役となって支援している。		

グループホームあさひの家室蘭

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方のご家族様が、いつでも気軽に相談できる環境作りを目指し、関係性を構築している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関りの中での把握に努めている。言葉や表情などからも本意を読み取るようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ライフヒストリー表でのアセスメントを利用し、ご本人やご家族様、関係者から伺うように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々人の24時間の記録で入居者様一人ひとりの生活リズムを理解すると共に、言動や細かな動作から、本人の全体像を把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様が「自分らしく」暮らすことができるように、ご本人やご家族様から不安や願いを聞き、共に目標を達成してゆけるオリジナルな介護計画を関係者に意見をもらいながら作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の状態変化や職員の気付きは、個別のケア記録に記載し、職員間での情報共有に努めている。個別記録をもとに介護計画の再評価を実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制を活かして入居者様にとって負担となる受診や入院の回避、医療処置を受けながらの生活の継続など、ご本人・ご家族様の状況や要望を軸に臨機応変に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様が安心して地域での暮らしを続けていけるように、市担当職員や契約している薬局等と意見を交換する機会を設けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族様の希望するかかりつけ医となっている。状態変化・悪化がみられる場合は、電話連絡での指示、受診、往診が早急に受けることができる。		

グループホームあさひの家室蘭

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携訪問看護の看護師を配置し、訪問看護記録をもとに健康管理や状態変化に応じた支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、ご本人への支援方法に関する情報を医療機関医に提供し、職員は頻繁に見舞うようにしている。ご家族様とも情報交換しながら回復状況など速やかな退院支援に結びつけている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「重度化した場合の対応に係わる指針」を説明し、意思確認を行い、事業所が対応し得る最大のケアについて説明している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所での救命講習実施できておらず、状況に応じた応急処置の方法を訓練が必要となっている。動画を活用した研修を検討していく。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所内の消防訓練は年2回に開催している。今後は地域と連携した防災訓練を実施できるよう町内会とも連携していく。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会やミーティングにより、職員の資質向上を図ると共に、日々の関わり方を点検し、入居者様の尊厳やプライバシーを損ねない対応を図っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の人格を尊重し、個々人がわかりやすい言葉でいくつかの選択肢を提案して、一人ひとりが自ら決定できる場合をつくっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「一日の流れ」はあるものの、一人ひとりの人間性に配慮しながら、できるだけ「私らしい生活」ができるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人本意で身だしなみが整えられるよう支援している。個別の生活習慣に合わせて、おしゃれを楽しみ、通院や行事に参加している。		

グループホームあさひの家室蘭

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材や新鮮なものを採り入れ、時には前庭で一緒に食事をとり、楽しめる雰囲気を提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	おやつや補食も含めて入居者様一人ひとりが、一日全体で、栄養や水分量がどの程度摂れているのか記録し、職員が常に意識しながら関わっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声かけを行い、ADLに応じて職員が見守ったり、介助を行っている。就寝前は義歯の洗浄を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の24時間記録にて排泄チェックを行い、パターンを把握し、声かけ、誘導を行い、自立に向けて支援を続けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材や乳製品を摂り入れている。水分量も視野に入れて、リハビリ体操や家事活動など身体を適度に動かす機会を設けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の時間の長短、湯温など個別に把握し、ゆっくり入浴できている。入浴されがらない利用者には、事前に声かけしたり、楽しく入浴できる雰囲気づくりを心がけている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠パターンを把握し、体操や散歩、行事などに参加を呼びかけ、日中に傾眠が強くなるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報を整理し、職員が内容を把握できるようにしている。処方や容量が変更されたり、状態変化がみられるときは、いつもより詳細な記録をとり、医療機関と連携を図れるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	演歌等のYoutubeやCDをお好みに合わせて選んでいただき、鑑賞している。食器拭きなどの家事活動も適宜役割として行っている。		

グループホームあさひの家室蘭

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響により、積極的な外出はないが、通院やお祭りレクの際には外の空気を感じ、気分転換を図っている。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設側で金銭管理は行っていない。必要な消耗品や病院受診代は立替えによりお支払いしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所内の電話を利用していただいたり、携帯を所持されている方もいる。施設に届いたお手紙はご本人に取り次ぎ、交流が途切れないよう配慮している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季のイベント時、または日々のレク活動で装飾を作成し、季節感を演出できる空間を大切にしている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファコーナーやテーブル席があり、一人で過ごしたり、仲の良い入居者様同士で寛いでいる姿がある。転倒等の事故を未然に防げる環境づくりも配慮している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた思い出のある写真や家具を持参していただき、在宅で生活しているような環境を整えている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、浴室、トイレ、居室等に危険物がないか、障害物がないか、日頃より環境整備を行っている。			



## 目標達成計画

事業所名 グループホームあさひの家室蘭

作成日：令和 5年 3月 6日

市町村受理日：令和 5年 3月 16日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議議事録送付後、参加できないご家族様、構成員から事業所運営に対する意見・感想などが聞き取れていない。	運営に対する幅広いご意見をいただくため、議事録送付後にご意見カードを返送いただいたり、電話での聴き取りを行い、今後の運営の参考にさせていただく。	議事録の送付後、ご意見カードの返送や電話での聴取を行い、次回の運営推進会議で議題に取り上げ、再び議事録にフィードバックしていく。	3ヶ月
2	35	自然災害から出火した想定の話し合いやシミュレーションが行われていない。	災害発生時の具体的な話し合いをカンファレンス等で行い、自然災害発生時のシミュレーションを実施する。	カンファレンス等の際、災害対策マニュアルを参考に、DVDやネット動画を用いて、災害発生時の緊急対応を想定した話し合いを行う。また、階段を使用した避難訓練を実施する。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。